



仲良くなれるように

十一月二十四日は待ちに待ったのびっこ園との交流の日。普段はあまり関わりのないのびっこ園の子ども達と散歩を楽しんだ。二人一組になっておしゃべりをしながら、とても楽しい時間になった。

まず、私たちが向かったのはDさんの家で飼っている三匹のヤギたちがいるところだ。そのうち二匹は今年の八月に生まれた子ヤギで、ここでは、Dさんがみんなにヤギの解説をした。



みんなで、ピース

そして、次に向かったところは、「グミの木」があるところだ。木の実を袋の中にたくさん集めた。
最後に私たちが向かった場所はヘリポートだ。ここでは、みんな虫網を持って虫を探した。

【六年生の感想】

Dさん↓今まで触れ合う機会が少なかったが、一緒に散歩をして、さらにのびっこ園の園児たちと仲良くなれた。

Yさん↓園児たちと遊ぶことができ、もっと仲良くなれた。これからも、のびっこ園の子ども達と遊んで仲良くなりたい。

Mさん↓のびっこ園の子ども達とたくさん遊んだり、話したりできた。休日も、のびっこ園の園児たちと一緒に遊びたい。

小学六年 M・A



始まりの会

紙芝居

今月の紙芝居は、SさんとJさんと僕で『やぎじいさんのバイオリン』というクリスマスのお話を読んだ。今回は紙をぬく係りを任せ、練習では、紙の抜き方や間の取り方など心配なことが多かった。何回も練習を重ねながら、小学一年生のJさんが読むところを指でなぞってサポートしたり、お互いにアドバイスをしたりした。そのおかげか、少しずつうまく読めるようになってきた。

心配していたことも、本番ではよくできていて、安心した。そして、実はセリフを一つ飛ばされていたのだが、周りに悟られることなく、落ち着いて対応することができた。

二期最後の紙芝居・ブックトークは、悔いなく締めくくることができてよかった。

中学一年 E・N



緊張……

悪石島に震度5強！

十二月九日、授業中に大きな揺れが起こった。数日前から小さな地震は続き、登下校の時はヘルメットを着けるなど注意していた。しかし、地震の回数も減り、落ち着いてきたと思ったときに震度5強の大きな揺れが襲った。反射で机の下へ隠れることはできなかった。揺れが収まってから校庭に避難し、みんながもたもた無事だった。

避難後、何時間後かにやっと家に帰ることになった。家に帰るとコップが割れていた。物が落ちていたり、家のものが散乱していた。落ち着いてから確認をすると、親や友達などから電話がきていて、色々な人が心配してくれていることや支えられていることを改めて感じた。

中学一年 E・N

学校新聞コンクール 受賞



受賞の様子

今年、悪石島小・中学校で作成している「ボゼ新聞」が学校新聞コンクールにて賞を受賞した。私はこの新聞を昨年から作成しており、とても誇りに思う。現在、そのコンクールから受けた改善点を意識して作成している。このようなコンクールは参加するだけでなく、多く学べることがあり、積極的に応募したい。受賞を機に、自分なりに新聞を改めて見返して、改善できることが二つあると思った。

一つ目は、インタビュー形式の記事をより充実させるということだ。インタビューは新聞でよく見られるが、ボゼ新聞ではひとこと載せる程度で、新聞の情報量としては少ないように感じるからだ。せっかく二班に分かれ、一カ月交代で新聞を作成しているのだから、インタビューをする人を絞ったり、より詳細な記事にしたりした方が読む人は面白いと思う。

二つ目は、読む人が知らないことや知ってほしいことについての記事を増やすということだ。たとえば、運動会について記事にする場合、島民の方も多く参加されているため、運動会の説明やその時の様子を記事にするだけでは、物足りなく感じる。そのため、運動会までの練習や準備の様子、自分たちがどんなことをがんばったかも取り入れた記事にする。読む人が知らない「自分たちの姿」を伝えることができるのではないかと考えた。

島のひととの交流の場の一つとして新聞を作成している。できるだけ多くの人に楽しく読んでもらえるような記事が書きたい。そして、より多く私たちに知って知ってもらえるように、これからも頑張りたい。

中学三年 R・M